



SELF- KNOWLEDGE TOOL

Vol.4

-面接&GD対策編-

INTRODUCTION

皆さん、就職活動は順調に進んでいますでしょうか？
志望企業へのプレエントリーが進み、既に選考が進んでいる方もいらっしゃる時期かと思います。

今回は、

- ✔ 「解決・直観」タイプの面接＆グループワーク時の強み
- ✔ 「解決・直観」タイプのあなたが選考時に陥る状況と対策
- ✔ 「解決・直観」タイプのパフォーマンスの発揮確認

をお伝えします。

改めて自分の個性を認識し、その上で効率良く就職活動の準備を進めていきましょう。



面接やグループワークに臨むにあたり

面接やグループワークでは、他者とのやり取りの中で、評価者に自身のことを自分の意図通りにイメージさせ、伝えていく必要があります。ここで伝えようとする自身の人物像が自分の個性に合ったものであれば、自然な言動を行うことができ、相手にもよく伝わるはずです。しかし、その人物像が自身の個性とかけ離れたものだど、相手に違和感を感じさせることになり、評価者が自分のことを正しく理解することが難しくなってしまいます。

定型的な型や人物像にこだわらず、自分らしい表現方法で、自然なパフォーマンスを実現し、自身の人間性や価値観、志望動機をスムーズに相手に伝えていきましょう。

これからお伝えする内容は、セプテーニグループの応募者・内定者データベースの中から

「解決・直観」タイプの学生に見受けられる傾向をもとに抽出しています。

01 あなたの個性タイプ (Vol.1からの再掲)

個別的特性診断をもとに導き出されたあなたの個性タイプは、

解決・直観タイプ です。

このタイプは、継続的に物事の改善をしていくことができ、

周囲に合わせて柔軟な行動ができる人です。

相手の都合を理解し、周囲の意見を尊重するので、聞き上手な一面があります。



タイプの特徴

現状を継続しつつ、改善を積み上げていくことが得意なタイプです。良いものを残しつつ、悪いものを改善しながら目標を達成していきます。興味のあることを極めることに積極的です。

新たな情報に対して、物事の全体像を理解し、計画性を持って取り組むことができます。

その中で、基本的な内容から順を追って確認していこうとします。何か問題があったときにも、継続的に工夫改善していくことが得意です。

期待されれば、期待された以上の結果を出そうと頑張り、人を喜ばせるためには努力を惜しまないタイプです。

Ⅰ ネガティブな状態になると

相手に指示を出す場合、まず、自分がある程度全体像を把握するまでは、人に任せることができず抱え込んでしまいがちです。

順調に進んでいる場合でも心配になりやすく、何度も確認してしまいます。

範囲をつかめないまま新しいことをやろうとすると、今までのやり方で何とかしてしまおうとします。

何も決まっていない状態で、一から自分で作り上げることは苦手なタイプです。

やり方やルールが明確になっていないと不安になります。

相手がどう思っているのか、反応を窺って自己主張をあまりしません。自分の考えたアイデアや発言を否定されるとひどく落ち込みます。

Ⅱ 口癖

「このまま様子を見ましょう」「無難」「安全に」「確実に出来ることから」

02 選考に参加するにあたって

ESなどを通過すると、実際の選考に参加していきます。内々定を獲得するためには、基本的に複数回の面接やグループワークというプロセスを経ていく必要があるでしょう。面接やグループワークに参加する際に気をつけておきたいポイントを以下に記載します。

●相手にも思考や行動の特性がある

面接官、グループワークでワークを共にする就活生やその時の評価者をあなたが指定できる可能性はとても低いでしょう。つまり、見ず知らずの人達にあなたの魅力を伝えたり、一緒に何かに取り組んでいくことになります。あなたにも思考や行動の特性があるように、相手にもその特性があります。

例えば、「論理タイプ」は細かな事実や情報を整理・説明していく傾向があるのに対し、「直観タイプ」は全体像や雰囲気をもとに理解・説明する傾向があります。周囲の人達の個性を判断して、場をコントロールしていくことができれば理想ですが、判断する情報が無ければそれも難しいでしょう。

相手の思考・行動特性を見抜くことができない中で、「〇〇な人を演じた方が良いのでは？」と考えても仕方ありません。ESでの記載内容や実際のあなたの反応との乖離が生じ、かえって上手くいかなくなってしまう可能性が高まります。

●自分の個性を理解して、パフォーマンスを高めよう

どんな個性にもポジティブな面やネガティブな面があり、与えられた状況によって重宝される個性も変わってきます。「**自分の個性のポジティブな要素とネガティブな要素を理解する**」ことで、ポジティブな要素を前面に出し、ネガティブな要素をカバーしながら取り組んで行きましょう。

自己分析ツールvol.1～vol.3でご説明したように、物事に対する反応、業界研究の方法やタイプごとの魅力はそれぞれ異なります。同様にワークの取り組み方や面接でのコミュニケーションにも、個性ごとにあったやり方があります。自分の個性の活かし方を理解してパフォーマンスを高めていきましょう。

03 解決・直観タイプ の面接&グループワーク時の強みと陥りやすい状況

01

柔軟な姿勢で相手の姿勢を受け入れる度量を持つ傾向にあり、素直さや協調性を評価されやすい。

02

調和をとることが得意な傾向にあり、グループワークではチームのバランスがとれ、面接官のペースに合わせられる。

03

我慢強く、努力家であるため、粘り強い姿勢で継続的な活動を行うことができる。

パターン①

間違っ言動を行うことを嫌って思考する時間が長くなり、相手に合わせようとするあまり、タイミングがずれ、会話がチグハグになってしまう、あるいはタイミングを逸する

対策

柔軟な姿勢で相手に合わせるマインドセットができている一方で、間違いや失敗を恐れることで、タイミングが一歩ずれ、会話がスムーズにいかなくなってしまう状況が想定されます。とはいえ、解決・直観タイプの良さは安定した温和な姿勢にありますので、そこを無理に変えるのではなく「ちょっと待って下さい」と一旦声をかけておくなど、自身の話したいことを整理する時間を稼ぐためのちょっとした工夫を行い、余裕をもって臨みましょう。

パターン②

新しい情報や状況変化に応じて考えや判断基準が変わってしまい、一貫性に欠ける印象を持たれてしまう

対策

周りの変化を受け入れ、自身の判断軸を柔軟に改善していくことができる一方で、その柔軟性が一貫性や自身の考えがないと認識されてしまうことがあります。客観的な視点で自身の言動を鑑みて、何によって変化が起こったのかを認識し、話している相手に「先ほどお話しされた～という言葉に共感し、自分の考えが変わった」など、示唆を明確に行っていく工夫を行うことで、相手が受け取る印象と自身の発言との齟齬を回避しましょう。

パターン③

答えがないあるいは想定していない質問や今まで経験したことのない状況に対面した際、頭の中が真っ白になり、思考が止まってしまう。

対策

解決・直観タイプは自身の経験量がそのままパフォーマンスに繋がる傾向にあるため、今まで経験したしたことのない状況や初めて対面する相手のタイプによっては、どう反応してよいのかわからず言動が停止してしまう状況が考えられます。グループワークの練習機会や普段話することがない人との会話機会を意識的に増やしていき、その経験から色んな状況設定をイメージすることができます。かけた時間と努力量を自信に変えて選考に臨みましょう。

おわりに

いかがでしたでしょうか？

本ツールが、皆さんにとって短時間で効率良く、
就職活動の準備を進めるための一助となれば幸いです。

また、今回の自己理解ツールvol.4を読んで
いただいた後に

お答えいただきたい**アンケートをマイページ
に表示しております。**

ぜひアンケートにご協力をお願いいたします。

今後のサービスを受けるためには回答が必須
となりますので、
できるだけお早めにご回答いただけますと幸いです。

次回の自己分析ツールVol.5は
【入社前準備編】です！

アンケートの回答はこちら

自己分析ツールWEBサイトは
こちら